

nct

沼津工業高等専門学校同窓会

〒410 沼津市大岡3600 TEL0559-21-2700

Copse

1995/Vol.13

ALUMNI BULLETIN,
NUMAZU COLLEGE
OF TECHNOLOGY

Copse
コプス

語源は英語の COPSE〈雑木林〉です。
沼津高専創立当時、学校周囲に林立し、
今もなお食堂付近におもかげを残している雑木林と、
校歌の中の「伸び急ぐ小林が樹」
をイメージした愛称です。

CONTENTS

Copse 1995/Vol.13

- 戦後50年、そしていま高専は〈名誉会長〉工藤圭章…… 2
- 会誌発行に寄せて〈会長〉木ノ内倫弘…… 4
- 会誌について〈副会長〉仁科和晴…… 5
- 事務局よりのお知らせ〈事務長〉坂井徳尚…… 5
- 施設の現状と課題〈沼津高専事務部長〉伊藤 房…… 8

退官を迎えて

- 近況報告〈退職教官〉三ツ井東司……10
- 趣味と実益〈退職教官〉大橋 定……11
- 高専赴任のころ〈退職教官〉堀米 徹……12

西湘支部特集

- 単身赴任近況報告〈M3〉仲田富保……16
- 減じる前に遊ぼうぜ!〈M13〉興柁 裕……17
- 集え!西湘地区の仲間たち〈M1〉増田徳一……17
- 厄年に思うこと〈E9〉福山一成……18
- 同窓生が頑張ってます〈M2〉勝俣 満……19
- ダイビング大好き〈E17〉内田光明……20
- 転職とケニア行き〈C7〉川嶋 智……20
- 近況報告〈E19〉山縣秀夫……22
- 子育て、そして思うこと〈C10〉小林富子(旧姓 樋口)……23
- 小田原に住んで〈E18〉鈴木重人……23
- 21世紀の新聞は?〈E2〉竹越友昭……24
- 工事屋の世界〈M8〉志村不二男……25

- 平成7年度東海地区高専大会成績表……27
- 同窓会会則……28

戦後50年、そしていま高専は

学校長(同窓会名誉会長) 工藤 圭章



「夏がくれば思い出す、静かな尾瀬、遠い空。」夏ともなれば聞こえてくる美しい歌声。この歌を聞くと、人びとは故郷を思い、あるいは楽しかった祭りと、幼いころの遊びに思いを馳せることが多いだろう。しかし、私にとって今年の夏は終戦50周年ということで、終戦時のことがいつもの夏にまして強く思い出される。とくに印象深いのは、やはり昭和20年8月6日の広島原爆のキノコ雲である。

当時、海軍兵学校2号生徒だったわたくしは、ちょうどその朝、江田島の対岸の西能美島の中村(現中町)で、水泳訓練のための準備体操をしていたときだった。突如、数十の落雷が一時に襲ってきたような轟音に驚かされた。「見る!あれはなんだ?」指さす方を見ると、北の空にもくもくと白い雲が立ち上がりはじめていた。みるみる中にこの雲は傘をひろげながら巨大なキノコ雲となっていった。茸の茎の中軸に相当する部分は燃えるような赤い色が映しだされていた。

原子爆弾が投下されたちょうどそのとき、わたくしたちが訓練していた場所は爆心地から20キロも離れていない距離にあった。したがって、このときの印象は今でもまだ強烈に脳裡に残る。翌日、この影響を調査にいった海軍兵学校の上官たちは、被災地と被災者の惨状に驚き、実情報告とともにわたくしたち生徒には、それ以後、空襲警報が発令されたときには皮膚を露出しないように白い布や白い手袋を携行して退避するように命じたのであった。

後年、“AFTER WAR”という映画を東京都内の劇場で見たとき、広島原爆のことを再印象づけられた。あのときに体験したキノコ雲がスクリーンに再現されたからであった。それを思うと、原爆・水爆の影響の悲惨なことを等しく認識した世界人は、何故いまも核爆発の実験を繰り返そうとするのであろうか。中国の新疆省ロプノール砂漠での実験、そしてフランスの太平洋ムルロワ環礁での実験と、実験禁止条約を来年に控えての駆け込み的動向は、地球の平和を破壊するものとして、真の科学への冒涇といえるであろう。科学は人類の利便のためにあるのではなく、人類の発展と恒久平和のためのものだとして認識すべきである。軍事目的のための核の利用は、断じて行われるべきではないのである。

戦後50年の間に教育体制も大きく変わっている。6・3・3・4制の学校制度は、昭和37年に新しく発足した高等専門学校設立により、高校・大学とちがう高等専門学校の5カ年間の一貫した完成教育による技術者養成が可能となった。そして、多くの優秀な学生が実社会に出て各

分野で活躍するようになった。本校も高専発足以来30年も過ぎて、いまや卒業生の総数は4,504人を数える。本校が全国54国立高専・5公立高専・3私立高専、計62高専の中にあつて優秀高専として評価されているのは、このような卒業生各位の製造業や学校・研究所での活躍ぶりのお蔭と深く感謝している。今年はまだ、夏の全国高専体育大会でサッカーが優勝



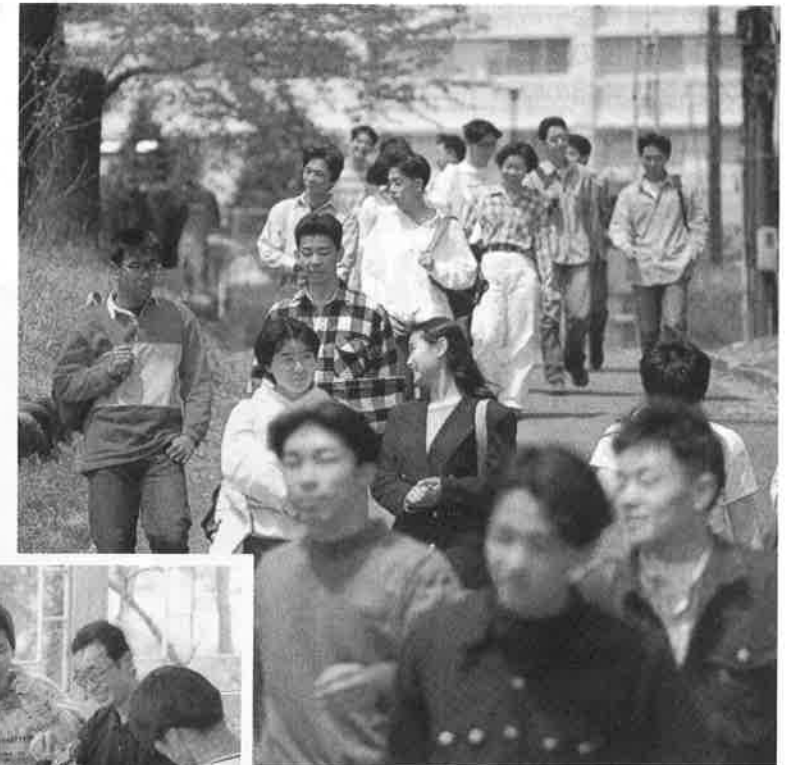
という快挙があり、また、本校の名声をたかめることができたのも嬉しいかぎりである。

平成3年に高等専門学校設置基準が改正され、高専に2年の修業年限の専攻科が設置されるようになった。今まで専攻科の設置された高専は12校である。本校でもこの3年来、専攻科設置を文部省に要望してきたが、来年度概算要求にようやく取り上げられ、設置についての曙光がどうにか見えるようになった。来年度は学年進行中の制御情報工学科も5年生ができて機械工学科・電気工学科・電子制御工学科・物質工学科とともに、5学科の体制が確立する。一方、平成5年度から4年計画で進めてきた学寮の居住改善工事も、着々と成果があげられていて、



学寮居室

いまま、雄峰寮の女子寮への改装、秀峰寮の個室・2人室の改造などが始められている。また、校内LANの整備も年度末までには終わる予定である。昨年度末の3月にはインターネットへの接続が完了したこともあって、マルチメディア時代に対応して双方向の情報処理教育も可能になった。本校の教育・研究もこれを契機として今後格段の飛躍が望まれるのである。さらなる本校の発展を目指して、同窓会の諸兄・諸姉のご期待に応えたいと思うばかりである。



ミーティング



学寮風景

会誌発行に寄せて

同窓会会長 木ノ内 倫弘



同窓会員の皆様こんにちは。

私達の沼津高専同窓会誌も早や13号の発行を迎えることとなりました。その間いろいろ紆余曲折はありましたが、ともかくここまで続いていることは関係者各位の熱意によるものと深く感謝しております。今後とも継続して発行されることと思いますので一層の御協力をお願いします。

さて今年には2年に一度開催される同窓会の総会にあたる年です。日頃は何となく遠い存在、或いは空気の如く感じておられる方もあるかと思いますが、これを機にぜひ一度出席され母校教職員や同窓生諸兄とコミュ

ニケーションを図られることをおすすめ致します。時あたかも母校は高専祭です。後輩の生活ぶり、現在の学生気質などの見学がてら総会・懇談会の方にも顔を見せて下さい。多数の会員諸兄が出席されることを希望します。

ところで同窓会の活動方針であります、これは前回第12号でも説明したとおり

1. 継続性の重視
2. 個人負担の軽減
3. 人材の育成
4. 情報の共有化
5. 健全財政の維持 をめざしております。

現在はほぼこの線に沿って活動しておりますが、まだまだ役員一同未熟ですので至らない点もあるかと思ひます。色々と気のついた点がございましたら遠慮なく御意見をお願い致します。役員一同、多忙な日常の中ですが少しでも同窓会活動が活発化し、会員の皆様に理解していただけることを期待しつつがんばっております。

皆様のさらなる御協力をお願い致します。

又とかく同窓会の役員というと敬遠されがちですが、われこそはと思われ方はどんどん申し出てください。そして一人でも多くの方が役員を経験されることを希望しつつ、ご挨拶とさせていただけます。



会誌について

同窓会副会長 仁科 和晴



今回は同窓会誌の原稿依頼を、一括して西湘支部にお願いしました。このようなことは、初めてで、いろいろと違った角度から人選できればと思ったものです。いつもそうですが同窓会誌の文は、内容豊富なものばかりですので、会員の皆様は是非全部読んでもらいたいものです。

西湘支部の皆様には本当にお世話になり、ありがとうございました。さて、いよいよ11月は総会です。今回は久しぶりに母校で行うことになりました。学校を見ながら、“日本の工業を興すにはどうしたらよいか？”原点に戻って考えたいものです。

事務局よりのお知らせ

事務局長 坂井 徳尚



平成7年3月17日、第28回の卒業生が沼津高専同窓会会員の仲間となり、その数総勢4,504名を数えることとなりました。

同窓会の歴史もまた、自らの年齢とともに月日を重ねております。'93同窓会名簿も無事発行され、同窓会創設25周年記念として同窓生全員に配布することができました。このことは、同窓会の理事をはじめとする会員1人1人の同窓会に対する暖かい御協力の結晶であると、担当致しました名簿委員会明電舎グループ共々、事務局より感謝申し上げます。

さて、沼津高専同窓会総会が平成7年11月5日(日)午前11時より母校にて久しぶりに開催致します。11月4日(土)と5日(日)は高専祭の最中ですので、どうぞ卒業生も学生時代を思い出し、“今”を精一杯生きる学生達の若々しいエネルギーを肌で感じて下さい。その気持ちが伝われば、今回の総会の企画は大成功であると、事務局一同考えておりますので、1人でも多くの会員が母校を訪れて下さることをお願い致します。

最後になりましたが、8月の某日の真夜中のテレビのストーリーの中で“SURPRISE”という気になる言葉が出てまいりました。驚きとともに小さな贈りものという意味の英語でした。今回の同窓会の会誌も Copse コプスという愛称をつけて2回目、13号を数えるに至りました。これも寄稿していただいた多くのメンバーのおかげであると感謝いたしております。これからも、こんな企画はどうか？こんな企画をしたら楽しいのではないかと等々、会員メンバーに“SURPRISE”を送れるようなことがありましたら、そのアイデアを沼津高専同窓会事務局まで送って下さい。そしてこれからも同窓会が会員に小さくても、少しでもいいから人生の楽しさ、美しさとともに“SURPRISE”を送ることができたとしたら、理事をはじめとする役員一同これ以上の喜びはないと思ひます。これからも同窓会の活動に会員の皆様の御協力をお願い申し上げます。

母校学生からの“SURPRISE”

Part 1. 平成7年8月2日～6日三重県熊野市で開催されました第28回全国高専サッカー選手権大会にて沼津高専サッカー部は1回戦徳山高専（2-0）2回戦鹿兒島高専（2-1逆転勝）準決勝新居浜高専（1-0）決勝戦小山高専（5-0）と優勝候補を撃破し見事初優勝をはたし、全国制覇を成しとげました。

Part 2. 平成7年8月22日・23日に御殿場の青年の家で開催されました全国将棋大会にて沼津高専将棋部は団体戦で見事優勝致しました。



対戦相手	対戦地域	スコア	試合日
徳山高専	(中国)	0-2	8月3日
沼津高専	(東海)	2-0	8月4日
函館高専	(北海道)	0-4	8月5日
新居浜高専	(四国)	0-4	8月5日
大阪府立高専	(関西)	2-2	8月5日
熊野高専	(主管校)	2-2	8月5日
小山高専	(関東)	4-0	8月6日
石川高専	(北信越)	0-0	8月6日
呉高専	(中国)	3-1	8月6日
佐世保高専	(九州)	1-3	8月6日
八戸高専	(東北)	0-0	8月6日

この人

沼津高専サッカー部監督
坂井 徳尚 さん
(沼津市下香貫島郷2865)



八月に三重県熊野市で、開かれた第二十八回全国高等専門学校サッカー選手権大会。沼津高専サッカー部は初優勝を手にした。本報はマン・ヨン・店舗 駐在員を十二校の中で地区予選を勝ち抜いた二チームが

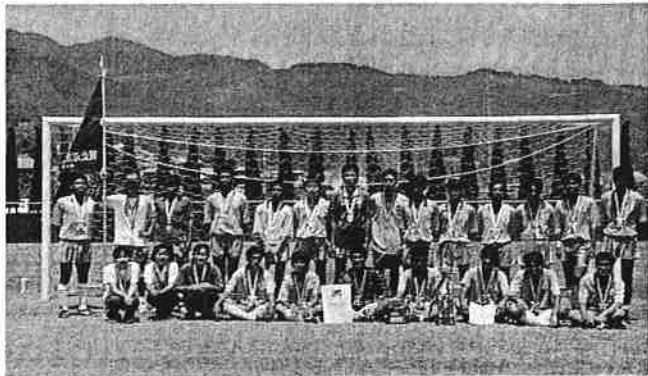
八月に三重県熊野市で、開かれた第二十八回全国高等専門学校サッカー選手権大会。沼津高専サッカー部は初優勝を手にした。本報はマン・ヨン・店舗 駐在員を十二校の中で地区予選を勝ち抜いた二チームが

沼津時代はM.D. (ミッドフィールダー)が、ドリブル突破とスループアスを得意とした。五人制のサッカー、フットサルで攻守の切り替えの速さを誇りました。チームのモットーは「自分、仲間、チームの勝利」。

印象的だったのは、一回大会で三位に終わった。日本サッカーリーグで、昭和三十九年、五十輪の選手で、今のサッカー部は、その選手が、サッカー部は、自分、仲間、チームの勝利を信じて戦った。学内は、多くのサッカー関係者に「お返しができる」と話している。

第28回全国高等専門学校サッカー選手権大会
●1995年8月2日～6日(三重県)
●優勝/沼津工業高等専門学校(静岡)

沼津高専サッカー部 18回目の挑戦で夢実現



第28回全国高等専門学校サッカー選手権大会で初優勝した沼津高専サッカー部。三重県熊野市の山崎運動公園多目的グラウンドで撮影された。

沼津高専サッカー部がこのほど、三重県熊野市で開かれた第二十八回全国高等専門学校サッカー選手権大会で初優勝した。これまで三回三位に止まっていたが、十八回目の出場で念願の頂点を極めた。

全国62チームの頂点 決勝は関東代表に圧勝

全国の国立、私立六十二チームのうち、地区予選を勝ち抜いた十二チームが参加した。沼津高専は東海地区代表として臨んだ。初戦で徳山高専(中国地区代表)を2-0で退けると、前年度の覇者で十五回の優勝経験を持つ鹿兒島高専(九州地区代表)に2-1で逆転勝ちした。準決勝も優勝候補の一角、新居浜高専(四国地区代表)に対し、後半に奪った1点を守り切り、決勝は小山高専(関東地区代表)に5-0で圧勝した。今年のチームは素早いドリブル突破とスループアスを得意とした。沼津高専は、自分、仲間、チームの勝利を信じて戦った。学内は、多くのサッカー関係者に「お返しができる」と話している。

御殿場 全国高専将棋始まる
第一回全国高専将棋大会(沼津高専主催、静岡新聞社・SBS静岡放送など後援)が二十二日、御殿場市中畑の国立中央青年の家で始まった。初日は団体トーナメントと個人予選リーグを行い、団体戦は第一回大会の覇者、沼津高専Aチームが秋田高専Aチームを下して連続優勝を決めた。全国の高等十三校から団体戦に二十チーム、個人戦に六十八人がエントリーした。三人組の団体戦の決勝は前回大会と同カードとなった。息詰まる対局の末、



熱の入った接戦となった団体戦決勝。沼津高専A-秋田高専A-御殿場市中畑の国立中央青年の家

で腕を磨き合う場をつくり、と意気投合し、全国の国公私立高専に呼び掛けて始まった。主管組織がなく高専の学生自ら運営スタッフを務める「またまた手づくりの段階」(浜渦允祐、沼津高専教授)だが、アマチュア将棋界が同大会に寄せる期待は小さい。審判長の日本アマチュア将棋連盟相談役、谷川俊昭六段(リコー)は、「レベルのばらつきがあるものの、各学校に、二人は力のある棋士がいる。今回の団体は沼津と秋田がリードしたが、今後大会を重ねることに、全国の学生の棋力の向上が図れるだろう」と話した。

施設の現状と課題

事務部長 伊藤 房



本校は創立以来33年を経過し、その歳月は一言では言い尽くすことのできないほど、歴史と伝統を守り営まれております。

この間、さまざまな分野で活躍する卒業生も4,500人を超え、施設等も年々整備され充実しつつあります。

そこで、母校の施設等の状況がどのようになっているのか、関心を持たれている方もいらっしゃると思いますので、最近の施設等の現状及び整備状況と今後の課題について簡単に述べさせていただきます。

1. 本校の概要 (平成7年5月1日現在)

- (1) 創 立 昭和37年4月1日
- (2) 設置学科 5学科 修業年限5年
 - 機械工学科-----40名
 - 電気工学科-----40名
 - 電子制御工学科-----40名
 - 制御情報工学科-----40名
 - 物質工学科-----40名
 - 計200名
- (3) 学生数-----1,060名
(うち、女子学生162名)
- (4) 留学生-----5名
 - マレーシア-----1名
 - インドネシア-----3名
 - 中 国-----1名
- (5) 高校からの編入学生
各年度-----約20名
- (6) 大学への編入学
毎年-----約50~60名
(卒業者の30%程度)
- (7) 教職員
 - 教官定員-----81名
 - その他職員-----61名
 - 計-----142名

2. 施設等の現況

- (1) 土 地-----90,220m²
(うち、運動場敷地21,705m²)
- (2) 建 物-----33,181m²
(管理棟、講義棟、各学科棟、体育館、学生寮他)
- (3) 学生寮-----7寮(うち、女子寮2棟)
寮生-----572名(定員)

3. 最近の施設整備状況及び計画

- (1) 平成3年度
 - 物質工学科生物工学科実験棟新築 (R2・513m²)
 - (2) 平成4年度
 - 女子寮(明峰寮)増築(R4・880m²)
 - 寮食堂増築(R1・68m²)及び同改修 (R1・594m²)
 - (3) 平成5年度
 - 学生寮(栄峰寮・光峰寮)改修 (R4・3,030m²)
 - 学生寮(翔峰寮)新築 (R5・1,751m²)
 - (4) 平成6年度
 - 制御情報工学科実験棟新築 (R4・780m²)
 - 運動場夜間照明設備新設(6基)
 - (5) 平成7年度
 - 学生寮(雄峰寮、秀峰寮)改修中 (R3・4・1,735m²)
 - (6) 平成8年度
 - 学生寮(明峰寮、清峰寮)改修予定 (R3・1,370m²)
- ※平成8年度で寄宿舍居住改善計画は完了予定

4. 専攻科設置計画

平成8年度概算要求において、次の3専攻とこれに伴う教官及び建物等の整備について要求を行った。

- | 専 攻 名 | 修業年限2年 |
|---------------|--------|
| 機械・電気システム工学専攻 | 8名 |
| 制御・情報システム工学専攻 | 8名 |
| 応用物質工学専攻 | 4名 |
| | 計20名 |

5. 今後の課題

33余年も過ぎますと建物等施設設備の老朽化が著しく、昭和60年度より校舎改修、平成4年度より寄宿舍居住改善を進めてまいりました。

さらに、近年は学生の体力向上が著しく進み、教室の狭あい化のため面積の拡張を要すること、女子学生の急増に伴う対策として女子更衣室や女子トイレ等を改善することなど、今後も随時、施設等の見直し・検討を行い、改善を図っていく所存であります。

また、本校はグラウンドが非常に狭く、野球、サッカー、ラグビー場は交互し、クラブ活動では、同じ場所で何種目も使用している状況にあることから、グラウンド拡張についても早急に検討していく予定です。

そして、施設改善の加え、経年化した教育研究用設備の更新、先端的機器の導入を考慮する等、教育研究に役立つ環境創りに努め、優秀な学生を確保し、企業に役立つ人材を育て、これからの厳しい社会に対処できる人材養成の一助として、努力していくことを考えております。



近況報告

退職教官 三ツ井 東司



昨年の酷暑といい、今年の猛暑といい、専任教官の緊張したものからの解放からか、身に沁みるものを感じています。

私は平成6年3月末日をもちまして、無事定年にて退官致しました。顧みますと、清水市立第四中学校の1年間を皮切りに、静岡大学教育学部を8年、そして沼津高専が32年の計41年、その間非常勤講師として、清水四中に2年、静岡英和女学院に7年、静岡大学教養部に23年で計32年、合わせて73年もの長きに至りました教職生活を大過なく全うすることができましたのは、多くの先輩諸氏の御指導・御支援・同僚の齒に衣着せぬ忠告・助言と、数え切れない素直で賢い教え子達に恵まれた賜物と、心より感謝致しております。

バスケットボールに目を転じますと、すばらしいチームメイトに囲まれながら、思い切り活躍できた悔のない現役時代もさることながら、打倒精華を目標に中学部からの長期計画で着手した英和女学院のバスケット部と、全国制覇を目指して、鬼コーチだ、排他的だと言われながらも、私生活のすべてに優先して手掛けた沼津高専バスケット部は、忘れ得ぬ思い出となっております。その間の指導の信条は

1. 苦しい時こそ頑張れ、苦しくない時なら誰でも頑張れる
2. 失敗は誰にでもある、ただ繰返すような愚かなことはするな



と言うもので、これは卒業生の結婚式にも何回か使わせてもらった言葉です。不幸にして英和では顧問教師として御一緒させていただき、陰に日向に御指導くださったH先生と、初めて福井のインターハイに出場できた時のメンバーO嬢を共にガンで失い、高専でも全国制覇まで今一步と言うところまで頑張ってくれたE2の主将H君を同じくガンで、M6の名マネージャーN君を事故で失ったのは返すがえすも残念の一語につきまます。あらためてご冥福をお祈りします。

退官に際しましては、同窓会の皆さんによる記念のパーティー（於長岡・千歳荘）を開いていただき、加えて過分な記念品まで頂戴して、誠に申し訳なく存じております。いただいた図書券は、高木彬光・斎藤栄・内田康夫・等々好きな作家による推理小説の乱読に使わせてもらっています。この長岡のパーティーだけでなく、学校創設当初の寮生会の役員とバスケット部OB会の合同コンパや、二期のサッカー部による一泊旅行にも招かれ、金岡中学での生活、臨海寮での思い出、創設当初の部活等々、現在では多くの部下を従がえて、部長・課長として活躍している皆さんが、あの若かりし高専の学生時代に戻って目を輝やしなから話に花を咲かせる場に仲間として居合わず喜びに浸ることができました。

退官後は、晴耕雨読と洒落れ込もうかと思っていた所、たまたま若い体育教官のドイツ留学がきまって、その間の授業を受け持つために週3日の非常勤講師を依頼され、その他、恩師の招きで常葉学園大学外国語学部に1日、静岡大学教養部に1日と計5日、平成7年度は、高専に1日、常葉大に1日静大に2日勤めさせてもらっています。授業の担当種目は、若い頃はテニスや卓球なんて、女・子供のやる事位にしか思っていなかったのですが、今ではそれらが専門の種目のようになってしまうしました。「若さは年令ではない。」と大きなことを言っても、体力の減退は認めざるを得ません。

定年で暇が出来たでしようからと町内の自治会から頼まれ、今まで何のお手伝いもしなかった罪滅ぼしの気持もあって評議員という役いただきながら、自治会館の管理を主とした仕事を手伝わしてもらっているものの、今迄が学校関係・体育関係以外には付き合いが薄く、限られた、範囲の狭い社会の中にあっただけに、物の考え方に行き違い

があったりして、衝突はしないものの、望ましい人間関係とは言えない状態です。



2つになったばかりの孫息子が市内にいて、週2・3回の割で遊びに来ます。表情が日一日と豊かになる様をカメラに収めようとシャッターを押しまくっている時は、夏の暑さを忘れる一時ず。

趣味と実益

退職教官 大橋 定



沼津高専を定年退職して早、1年と6ヶ月になります。昭和37年4月沼津高専が創設されてから32年の長い間、大過なく勤めることができましたことは、教職員の皆様をはじめ同窓生諸君の温かいご支援によるものと感謝しております。

沼津高専在職中の思い出は、32年間の長きに渡った生活の割には、すぐに思い出せることは余り無い。初代校長の井形先生が急逝されたこと、金岡中学校の仮校舎での授業のことは、鮮明に記憶している。この他には、特になし。ただ、学生の個人的な思い出（学校生活上の善悪は別）は、枚挙にいとまがない？くらい多い。初期の卒業生諸君は、名前、顔立ちや就職先まで覚えている。それが、いつの間にかだんだんと覚えなくなってきた（老化現象かも知れない）。多分、漠然と過

ごした期間が多過ぎたのであろう。できる限り嫌いなことは、忘れるようにしていたことも一つの要因とも思う。現代風に云うストレスを溜めないように一生懸命？努力をしていたのかも知れない。ストレス解消を名目に、かなり熱心にパチンコをしていたことも事実である。その時には、ストレスを解消できたと思っていた。ストレス解消から見返りを期待するようになってきた。当時は趣味であるパチンコと言っていたが、見返りを期待することを重視するようになり、勝負に熱中し、趣味とはかけはなれていった。先輩から忠告されたことを思い出し（今後、勝負事は止めなさい。勝負にこだわる性格であるから、ほどほどにしないと身を滅ぼすよ。と言われたことがある）その時以来パチンコはキッパリと止めた。利益が先行するとあまり良いことはない。必然的に短期決戦型になり、しかも、読み切り小説型ではなく、連続小説化して、至って始末が悪い。遂に勝負にのめり込むようになる。

その頃友人から1本のクラブをいただき、ゴルフを勧められた。ゴルフは、運動になり、見返りは無い（利益はない。従ってのめり込む確率は微少である。）と思って始めたが、最近かなりの実益があることを知った。決して負債はない。しかも、利益は無形のものである。有形の利益を望むことは、邪道な人間であると思っている。ゴルフは、静止している球なのに打とうとすれば、空振りや地球の皮むきや意志に反した方向へいく。しかし不思議と楽しいものである。以来25年一向に上達しないけれども今だに続けている。しかも楽しさは変わらない。これが本当の趣味だと思っている。一般に、中高年者の趣味と云えば、盆栽が代表的なものである。趣味とは、面白味・美しさを理解し、興味を持つことまたは職業としてではなく、楽しみまたは嗜みとしている芸事や勉強と国語辞典に記されている。利益を追求するとは記されていない。結果として、利益が生じることがあっても目的でなければよい。主旨は、あくまでも利益であってはいけないと思っている。

ゴルフは、年齢には無関係で、体を動かせる間は何かになっても出来ることである。同伴者に迷惑がかかったときが、限界だと思っている。ゴルフは、無形の実益があると述べたが、色々な職業の方と接することが出来ることである。勿論、友達同士や会社のコンペによるものが多いと思われる

るが？

種々の肩書きを持つ方、持たぬ方、若い方、高齢の方等多種多様である。ゴルフは、最もマナーを尊ぶスポーツと言われている。肩書とは無関係に、人間の性格が顕著に現れると思っている。例えば、初心者を軽蔑する人やよく面倒を見る人、自己中心的な人、打数をごまかす人、見えなところで球を動かす人など種々雑多である。これらは、社会的に地位のある人に以外と多い（多分に利害関係が絡んでいるのかも知れない。）人間の意外性を見ることが出来る。ゴルフをしながら相手を観察するのにも一興がある。勿論、自分も見られていることは、当然のことである。（性格が悪いかナ？）

在職中、学生会のクラブ活動としてゴルフ同好会を発足させた。学生に、ゴルフを通じてルールとマナーの必要性を強調してきた。多くの学生は、ルールの前にマナーがある事が、如何に大切なことであるか理解できたようである。しかし、ゴルフに限定しているかも知れない。スタート時同伴者は、使用球のメーカーと番号を申告する。これがマナーである。違反しても特に罰則はない。しかし、競技中同じ場所に球が2つ並んで判別できないときは、両者共紛失球となり、1打罰が与えられ、元打った所から打ち直しをすることになっている。これは、ルールである。従って、ルールのみを重視するのは非常に危険である。（ルールによる罰打のみを知っていても片手落ちになる）。球の汚れや傷での判別は駄目である。また、殆んどの人達は、1打罰は知っているが次打は、元の所へ戻らないで、球を見失った所や判別できなかった所より打ち直している人達が多い。友達同士の場合、ルールは理解していて、進行上やむを得ず2打罰として打ち直すならば許されるが、堂々と1打罰で涼しい顔をしている不心得者が時々見受けられる。

このように記すとゴルフは、悪い点が無い様に思われるかも知れないが、悪い点については記さない。これも自分の趣味の為である。必ずその後には実益なるものが追従してくる。

同窓生諸君も大いにゴルフをやるべし。囲碁・将棋や盆栽も良いことですが、しかし、運動にはならない。体を動かさなければ、体力は衰えるばかりである。年寄りの冷や水かも知れない。

高専赴任のころ

退職教官 堀米 徹



私は去年の12月で満63歳となり、規定によってこの3月に定年退官いたしました。退官に際しては、同窓会から過分なご芳志をいただいたことを、会員のみなさんにこの誌上をお借りしてご報告し、心からお礼申し上げます。

私が沼津高専のドイツ語教師として赴任したのは昭和43年4月のことでした。そうなる直接のきっかけは、前の年のいつごろでしたか、古いかたならよくご存じの大沼先生と沼津の街で偶然にお会いし、高専へのお誘いを受けたことでした。大沼先生は私が沼津東高の3年生になったときに新卒としてそこへ赴任してこられたかたです。ですから私が大学の独文科へ進んだことをよくご存じだったのです。

思えば、それは不思議な巡り合いでした。私は大学時代に本が読めなくなるというノイローゼの状態に陥って、好きで選んだ独文科をろくな勉強もできずに、2年遅れでやっと卒業しました。そのときは、ドイツ語とはもう縁を切ったつもりでおりまして、以来ずっと県内の高校で英語の教師をしていたのです。ところがそうやって11年あまり経ったある晩のこと、縁を切ったつもりでいたドイツ語にたいへん感動するということがありました。またあの話かと思われるかたも多いでしょうが、少し辛抱していただくこととして話を続けます。それはモーツァルトのオペラ「魔笛」の全曲がラジオで放送されたときのことでした。「魔笛」は台詞のやりとりも混じったドイツ語のオペラです。それを聞いて、私は涙がポロポロと溢れ出るのを抑えることができませんでした。浄福の涙というのでしょうか。私に対して、ドイツ語がそれほど美しく響いたのです。またこの一晩の出来事を契機に、少年期の終わりごろの私の情感を養い、私の生きていく方向を示してくれたものへの思いがまたよみがえってきて、自分はやはりドイツ語とは縁が深いのだと思うようになりました。このときから私は、学校の仕事のかたわら、

またぼちぼちとドイツ語を勉強するようになっていたのです。「不思議な巡り合い」と申したのは、大沼先生とお会いしたのが、ちょうどそんなときだったためなのです。

ただ、渡りに船と、喜び勇んで高専に乗り移ったわけではありません。ためらう理由がいくつかありました。ひとつは、すでに申しあげたように、ろくな勉強をしてこなかったのですから、そんな私が高専にドイツ語教師としての地位を得ることに対して、後ろめたい気持ちがあったということです。東大の独文卒というのが、自分には履歴詐称にも等しく思われていたのです。

ふたつ目として、前任校の校長への恩義と責任がありました。この校長は、私がすでに別の進学校への転任を内示されていたにもかかわらず、それを覆してわざわざ自分の所へ呼んでくださったのです。それに対して、最初の2年間はまだまだ十分に責任を果たしておらず、恩返しらしいこともできておりませんでした。私にエンジンがかかったのはようやく3年目のことなのです。そのときは、はじめて受け持った1年生を相手に、まるで逢瀬を楽しむように、毎日を夢中で過ごすようになっておりました。高専からお誘いがあったのは、ちょうどそのような、校長の期待に応えるのもようやくこれからと言うときだったのです。そんなところをあっさりと離れる気にはなれませんでした。

この校長はかつて高専の設立に深く関わっていたかたでしたが、私の高専行きには反対でした。高校から高専に移り、やがてまた高校へ戻ったS先生、K先生の例を挙げて、高専での私の将来に対する危惧の念をはっきりと示されたのです。校長に「高専の様子を聞いてこい」と命じられて、草薙のK先生をお訪ねしたこともありましたが、旧知の間柄だった三島のN先生のところへは、自分から訪ねていきました。

こんなふうな、態度を決めかねている時期が続きましたが、そのあいだにも私の思案の中心には、常に「ドイツ語をやってくれる人がいなくて困っている」という大沼先生の一言がありました。そして、結局はこの一言が決め手となったのです。「むこう（高専）もこちら（高校）も、それほど年齢の変わらない人たちである。こちら、特に自分のいる高校には、優れた教師がひしめくほどいる。だのにあちらではドイツ語をやる人がいなく

て困っているという。これは不公正ではないか。たとえ自分のように一度はボロボロになった人間でも、むこうで役に立つのなら、いろいろな危惧はあってもむこうへ行くのが『独文を出た』者の責務ではないか」……ほぼこのように私は考えたのです。こうして私は高専の教員になったのでした。

はじめのうち、私はまずい授業をしていたと思います。発音もいまよりへたでし、文法の知識もいと比べるといい加減でした。語彙も乏しいものでした。そういえば、ホッケーの話に出てくるScheibeが何なのかを学生に教えてもらうようなこともありました。

ところが、1年目が終わったとき、そんな私に思いもよらぬことが起こりました。卒業祝賀会で、あつというまに何人かの卒業生に囲まれたのです。一般科目の教師が、並みいる専門の先生がたの前で特別に扱われたのですから、私はびっくりするやら恥ずかしい思いをするやらでした。その人たちは「僕らは、高専がどんなところか分かったら先生も変わるだろうと思っていたが、先生は少しも変わらなかった。これからは変わらないうちに後輩のために頑張ってくれ」とか、「もっと早くから先生に教われればよかった」となどということをするのでした。

この祝賀会にはもうひとつ記憶に刻まれていることがあります。今度は吹奏楽部の人たちが、「僕らの練習を見てくれたのは先生がはじめてだった。後輩のために顧問になってくれ」と言うのです。

思えばすがすがしい1年の終わりでした。

この年を含めた退官までの27年間、それはあつというまに過ぎた感じでした。その間いろいろのことがありましたが、沼津高専に来たことを私は幸せだったと思っております。ただ、私がいたことがみなさんにとってはどうだったのでしょうか……それはみなさんひとりひとりの審判にお任せするしかありません。

Special issues

●西湘支部●



本稿は
日頃、和気藹々と活動されている
西湘地区の皆様のご協力により
その会員の皆様の近況報告を中心に
構成されております

西湘地区というのは、どのような地域なのか分からないという方がいらっしゃるかもしれませんね。西湘地区というのは、小田原市、南足柄市、湯河原町、真鶴町、箱根町、山北町、開成町、二宮町、大磯町、など神奈川県の県西地区に位置する地域を対象にしていますが、実際には平塚市、泰野市、厚木市、相模原市、御殿場市、小山町など地域外の人達も沢山参加しており、幅広い活動を行っています。

単身赴任近況報告

日立プラント建設(株) 神奈川技術部 M3 仲田 富保

私が仕事の関係で小田原へ出て来てから、今年の7月で丸8年経ちました。妻子3人家族を静岡県藤枝市に残したまま単身し、現在小田原市内のアパートで一人暮らしをしています。そして週に一度、車で東名を通過して家に帰っております。

これまで独身時代は、転職、転勤等で3~4回住居を変えましたが、家庭を持ってからは、ずっと藤枝市に住んでいました。そして8年前に名古屋に転勤する様に、会社から言われましたが、この先どう動くか分からないと思い、単身で出ました。案の定僅か3カ月で神奈川地区への転勤となり、今日にいたっております。

仕事の内容は、日立プラント建設という会社の空調プラント事業本部・神奈川技術部に配属され、主にビルや工場の空調設備工事をしております。

こちらに来てからは、つい先日までずっと某工場内に常駐して、その空調設備や電気設備、他エネルギー関連設備の工事やクリーンルームの建設工事をして来ました。最近、少し足を延ばして厚木近辺の仕事もしています。

こちらに来て当初の3~4年間は、世は正にバブル景気真っ只中で、仕事は息つく暇もない位に忙しい日が続きました。工場内での我々の仕事は、平日は勿論のこと、装置類が停止したり、或いはその従業員が休む日曜、祭日に仕事が集中します。そのため休日というのは、あつて無いようなものでした。

それでも仕事上のメンバーにも恵まれましたので、家には殆ど毎週帰ることが出来ました。この多忙な期間中も、ずっと車で家と勤務地を往復していた訳ですが、今振り返ってみると、本当に危険な運転をしていました。と言うのは、仕事が終わって車に乗った途端に、仕事から開放された安心感と、疲れとで睡魔に襲われ、頻りに居眠り運転をしていました。よく無事故で過ごせたものだと、今でもちょっと不思議にさえ思われます。

一方、そんな中、小田原に来て3~4年経ってから、西湘地区の同窓会のメンバーに入れて頂き、集まりにも数回出席させて頂く事が出来ました。

久しぶりに懐かしい恩師や同級生の方々と再会出来ました。又、年代が違って顔も知らなかった後輩の方々と知り合いになれば、大変有り難く思っております。これからも、出来るだけ出席させて頂こうと思っております。

私も今ここで過ごしてきた日々を振り返ると、ああすれば良かった、こうすれば良かった等、反省することばかりです。これからの生活は、この反省を活かし、悔いのない生活が送れる様、又、同級生の皆様の頑張りに負けない様、精進して参るつもりです。

これまでの私の生活は、皆様と比較して特に変わっているものでもなく、敢えてご報告する様なものでもありませんが、今回投稿の機会を頂きましたので、近況報告するつもりで、ペンを執らせて頂きました。

滅びる前に遊ぼうぜ!

富士写真フィルム(株) M13 興梠 裕

ご無沙汰してます。M13の興梠です。先日、7月10日に37歳の誕生日を迎え、何の努力もなしに増え続ける年と体重に、最近ちょっと頭に来ています。

もう、随分と昔から噂され続けて来た1999年7月人類滅亡の日まで、あと4年。「どうせ滅びるんだから、やりたい事やろうよ、遊ぼうぜー」と、結婚当初から10年、妻と二人で遊びまくって来た私ですが、先日雑誌に1999年滅亡説を覆す記事が掲載されており、夫婦揃って「やばいよー」と顔を見合わせてしまいました。今まで「滅びちゃうんだから…」と言って、何の人生設計もせず、ノホホンと生きて来た訳ですから、もし、1999年に滅びなかったら…。こりゃー、大変だ!大変な事になってしまう。

でも、良く考えてみると、遊びまくっている割には貯蓄もあるし、元々粗食だし、何とかなりそうだね。と言う事で、後4年間、全力で遊ぶ事にしました。やっぱりお金は元気で生きている内に使わなくっちゃ。と言う訳で、夏休みに二度目のカナダ旅行に行ってきます。皆さんも遊んだほうが良いよ!

集え! 西湘地区の仲間たち

油研工業(株) 応用商品部 M1 増田 徳一

『西湘地区』と言うと「それ、どこにあるの?」と、ご存じない方が多いのではないかと思います。西湘地区というのは、神奈川県が一番西の端、箱根山の東裾、足柄平野に位置する小田原市、南足柄市を中心に足柄上郡、足柄下郡、中郡等から構成される県西地区を指す言葉なのです。

『湘南』と言うと明るいイメージがありますが、『西湘』と言うと『何となく田舎』というイメージがあるかもしれませんね。南は相模湾に面し、他の三方を山に囲まれた風光明媚で、温暖な気候と自然色豊かな所が、神奈川県西湘地区なのです。

さて、この西湘地区は比較的沼津に近いという好条件もあり、母校創立以来、静岡県外では一番多数の同窓生を輩出している地区だと思えます。又、京浜工業地帯を筆頭に県内に多数の工業地区を持つ神奈川県は、同窓生の就職先としても東京都に次ぐ有力地域となっています。

このような状況を背景に、毎年9月頃開催される食事会や会員名簿の発行など、当地区に住んでいる同窓生に情報交換の場を提供すべく、『西湘地区同窓会』が活動しています。現在会員数は約140名。定期的に活動している支部としては、唯一の同窓会支部だと思えます。

西湘支部への参加資格は、沼津高専の同窓生であれば誰でも参加出来ます。住んでいる所が多少遠くても、食事会に出席出来る方でしたら、どなたでも有資格者です。現に鎌倉市や藤枝市から出席される方もおります。

入会金は不要です。年一回の食事会の参加費は6,500円です。

西湘地区への参加希望者は、遠慮なく下記にご一報下さい。

西湘地区代表幹事：(M1) 増田徳一 TEL0465-35-9349

最後になりましたが、今回の同窓会誌の投稿は、同窓会本部からの依頼を受け、神奈川県西湘支部で原稿収集を行いました。果たして今回の紙面に、少しでも地方色を醸し出せましたでしょうか。

厄年に思うこと

(株)日立製作所 品質保証部 E9 福山 一成



今年の正月に会社のあるグループの招きで、神社の参拝に行った。

元来、神社仏閣、暦、方角に縁遠いたちであった小生にとって、お祈りは、都合の良い時にしか行わない。この時も、仕事上のお付き合い以外の何物でもなかった。形通りの祓いが済み、小生も末席ながら玉串奉奠を行い、滞りなく式が終了した。本殿から降りる際、御神酒を頂き、そして、暦を受け取った。後日、何の気なしに読んでみると、次のように書いてあった。

1. 今年は運氣が停滞して進展する気が完全に失われますから、何事にも苦勞が多く困難事続出となる事が予測されます。
2. いわゆる気の衰極ですから万事が塞がって通じることなく、経済面の不調のほか、病難・盗難・水難という事態も起こりがちで、万事に要注意の年回りとなります。
3. 従って本年は、どんなに自信があっても独走したり多欲に過ぎる行動は控えるべきで、焦って目先の欲を追えば急転直下に逆運を招きます。
4. 体調の狂いにも要注意で、本年の発病は治り難く慢性化の傾向となります。

即ち、小生にとって今年は、俗に言う、厄年であって、全てがうまく行かない年であった。今年は、4年に一の大変忙しい年で、小生個人というよりも多くの皆さんと共に大きな仕事をなし得なければならない年であった。これでは、厄払いをしたくなる気持ちが良くわかる。

それから、半年、厄払いもしないまま時が経過した。これまでの処、家族を含め、公私共に大過なく時が過ぎていく。悪いことは、全て、後半に持ち越すことになった。

昔の人々は、永い時を経て、様々な財産を形を変えて後世に残して来た。言語、宗教、文化は、それらの偉大な財産の一つである。先人は、多くの生活の知恵と経験から後世に習慣や言い伝えを残してくれている。それらの中には、時として多くの真理が含まれているケースがある。今思うと暦、方角もその仲間であろう。これまで、それらに縁遠い小生にとって、今年、その付けが一気に回って来るかもしれない。四十にして迷わず、などと恰好良いことは言ってはられない。これから、健康に、仕事に、十分心して、今年の後半を送らねば！

同窓生が頑張ってます

富士機器工業(株) 機器事業部 M2 勝俣 満



富士機器工業は、耳慣れない方も多いかも知れませんが、数ある富士写真フィルムの関連会社の中で、御三家の一つとして数えられている会社です。元来は、パトローネと呼ばれるフィルムのパッケージが主製品でしたが、現在は医療用の診断装置及び医療用・印刷用・写真ラボ用の感光材料処理装置の開発、設計、製造を主業務としています。

小田原から大雄山線というローカル鉄道で約20分、富士フィルムの街・南足柄市に在り、富士ゼロックスの隣に在る富士フィルム宮台開発センターと道路を隔てて反対側に位置しており、専用橋も架かり、活発に交流が行われています。

現在沼津高専の同窓生は、M2勝俣、M16鳥沢、M18日比野、M20の谷口4名ですが、業務でも、遊びでも、富士フィルムの同窓メンバーとも顔を合わせる機会は、かなり多いです。

我々4名は、それぞれ担当分野で、文字通り中核となって活躍しています。学生時代の我々の行状を良く知っている人は、多少又は大いに疑いを持たれるかも知れませんが、これは本当の本当です。

そもそも高専教育は、高校プラス大学教育と比較し、システマチックで、無駄が無い。従って、効率良く、バランスの良い技術者を産み出している。とりわけ我々が母校は、自由独立の精神に溢れ、教育の質もかなり充実していた(反対意見も多いと思いますが、結果論からは、結構そうだという実感があると思います)。

また、無駄が無い分、深みに欠けるという見方もありますが、深みのある人なんて、そうざらにお目にかかる訳ではないので、同窓生は、学生時代に落ちこぼれた人も含めて(名誉の為、決して我々がそうだという訳ではないが)色々な場で、それなりに良い評価を受け、又実績を残している人が多いと思います。

円高、構造不況等、日本の産業全体が大きな危機を迎えている現在、先ず個人として開発屋、生産技術屋、製造屋等それぞれの立場で、きちっとしたフォーキャストを行い、熾烈なサバイバルゲームに勝ち残って行く底力を着けて行かなければならないと思っています。我々も勿論ですが、同窓生の皆さんも、若き日の『日本の工業興す…』の歌を思い出して、是非頑張ってください。



ダイビング大好き

富士写真フィルム(株) 宮台技術開発センター E17 内田 光明

皆さんお元気ですか？私は元気です。

1983年に同期入社の方にスキューバダイビングの世界に誘われて早12年の月日が流れました。飽き易い私がここまでのめり込んだのも、とても楽しいクラブ（会社の社内クラブです。社内にクラブがあるのは、珍しいんですよ。）の人達と、ワクワクさせてくれる魅力的な海に沢山出会えたからだと思います。

今回、今まで潜った海から感動に浸りまくった小笠原を紹介したいと思います。ここは地形と海流の関係で大物（クジラ、イルカ、カメ、サメ、マグロ…etc.）が居て、高い確率でどれにも会えます。（クジラは季節ものなので注意！）クジラの潮吹き、海の中で聞いたクジラの鳴き声、海の中で見たイルカの仕草、これら全て一生忘れられない程ドーンと胸を打たれます。

一度潜ったら病み付きになると言われているダイビングに見事に嵌まってしまった私、涙のマスククリアをするような感動を求めて、今週も海に行ってきます。

転職とケニア行き

都立中野工業高校 食品科教員 C7 川嶋 智

卒業して20年近く経ったと思う。現在の教職に落ち着くまで仕事を5回替えた。それらの仕事の中で、一番楽しめた時が海外青年協力隊で行ったケニアの日々だった。

(1) 卒業からケニア派遣まで

高専卒業時は就職難だった。学校の紹介で入ったのが防毒マスクの営業マン。高専での知識など役立つ場所は無い。研究開発は大卒の仕事だった。技術職が無理なら給料の良い医薬品製造会社の製造員と思い、転職。その会社で、2年間150万円余り金が溜まり、前の会社を辞める時から考えていた海外青年協力隊に挑戦することにした。しかし化学科卒は、途上国にとっては、手に職が無いのと同じ。参加可能な職種は、理数科教師だけで、それには苦手な語学能力が必要だ。大卒の特権の教職免許も無い。とにかく受けてみて、2回目で合格。3カ月の派遣前訓練では、教授法から英語の表現まで毎日特別補習。再訓練（3カ月追加）の検討までされたが、所長の口添えで派遣OKとなる。やる気が最も重要視される良き時代だった。しかし、教職は家庭教師の経験しかないし、英語の成績が5年間『可』の自分にまともな仕事が出る訳がないとは、思っていた。

(2) ケニアで

案の定、英語力の無さで1年近く生徒に馬鹿にされた。授業をボイコットされたこともある。英語の教養人の証なのである。毎晩、英国製の教科書を数冊使って授業のシナリオ作りだ。中学校卒業時の全国統一試験の為の物理と化学、そして数学まで教える。この試験で自分の将来が決まるので、生徒は真剣である。化学も試験のためにつまらない暗記科目となっている。高

専の知識が役立って、色々な実験を見せて教師としての信頼を得る。

その他にも言葉の問題は多い。授業は英語、買い物はスワヒリ語（ケニアの公用語）、職場の周りは部族語の3つの言葉での生活で疲れることが多かった。楽しみは、自然公園の中の生徒の実家へ家庭訪問で、時間をかけてじっくり作った家庭料理と椰子酒の接待は最高だった。

(3) 帰国後、大学へ

帰国後、経験を生かした職業をと夢見ていたが、『Japan as No.1』の昭和59年では、途上国など左遷先。異文化経験2年の重要性など目もくれない。年齢から来る焦りもあり、とにかく定職に就きたかったので、外資系の機械製造会社に高専の先生の紹介で入社した。仕事は、機械設計。勉強しなければいけない事が多過ぎた。毎日9時過ぎまで残業を2年近く頑張ったがギブアップ。化学系の外資合併会社に転職した。

その仕事に慣れるとケニアでの教員生活が思い出された。日本で教員になるためには、先ず大学に編入して教職免許を取らなければならない。編入のためには、高専の単位は有効だが、教職のためには使えない。受験勉強などした事がないので、やらずに受験。数学の答案を白紙で出したが、合格した。32歳で大学生である。卒業時の教員採用試験が年齢制限の限界だ。34歳の教員試験は、一発勝負の賭である。教員と再就職用の2本立てで単位を取っていかなければならない。遊んでいる余裕はない。受講可能な講座には出来るだけ出席して『優』の数を増やし、1年間で100単位余りを取得した。



(4) 教員となって

現在、新宿歌舞伎町の隣に位置する都立中野工業高校の教員として5年目が過ぎようとしている。教科は食品製造、食品化学。高専でも大学でも勉強した事がないことを教えている。ホームルームや生活指導、部活、進路指導など、高専時代に教師の存在を意識したことの無いことで、今、教師として忙殺される毎日だ。今年度で3年間の担任業務を完

了して、やっと一人前の教員となる。教職は上司無しの仕事で、ケニア帰りには向いている仕事だ。

転職も考えている。39歳で企業の採用は無いと思う。しかし、いつも新しい可能性を考えていたい。国の税金を自分で払う以上に使ってきた負い目もあるので、日本の為の仕事をやりたい。履歴書の職歴欄が足りなくなっているのが悩みだし、お見合いの時も書類審査で落とされることが多いが、おもしろい仕事があれば、又転職したいと思っている。

化学科卒は、なんでも屋なのである。

近況報告

ソニー(株)厚木テクノロジーセンター E19 山縣 秀夫



私が沼津高専を卒業後、就職で神奈川県厚木市へ移り、10年が過ぎた。入社時から、半導体関係の仕事を行っている。簡単に、これまでの業務経歴を述べると、三交替勤務でのオペレーション、設備管理、オペレーターへの指導、量産ライン立ち上げ等の製造技術、そして現在は、プロセス開発を行っている。

今までの仕事の中で、一番印象深いことは、量産ライン立ち上げで、トラブルが続き、2日半徹夜をした事である。(現在では30歳を越え、体力的に無理であるが…。但し、遊びは別ですが)これは、学生時代に柔道で鍛えた体力の貯金が残っていたお陰だと思った。

今年、10年勤続表彰を貰い、節目を迎えた。最近では、業務内容や業務量の面から大変ではあるが、家族の為にも頑張らなければいけないと感じている。

私は6年前に結婚し、『一姫二太郎』と完璧な家族計画を達成している。実際には二人目は、5か月間の長期出張後、本能に任せた結果である。長女は幼稚園の年長で、長男が2歳である。長男は共稼ぎの為、同居している私の母に育てられているせいか、少々我がままである。しかし、一番可愛い時期の様にも思う。ただ、2年前に新築で購入した家の障子を破るのはともかく、壁紙に噛み付き剥がすのには、流石に閉口する。又、自分でいろいろとやりたがるのは良いが、少しでも気に入らないと、泣き叫ぶという事にも困ってしまう。とにかく、目が離せない状況である。しかし、二人共早く大きくなって、一緒にスポーツでもしたいと思っている。入社当時、会社の先輩から「子供は早く作った方が良い」と言われていたが、本当にその通りだと思う。体力が無いと、子供に負けそうである。会社に入ってから、運動を殆どしていないので、健康診断の体力測定結果が年々落ちて来ている。

運動不足を解消する為、最近地区のソフトバレー(柔らかいボールを使うバレーボール)クラブに入った。この位の運動が、今の自分には、丁度良いと思っている。しかし、練習の翌日から2~3日は、筋肉痛になってしまう。最初、ソフトバレーと聞いて、簡単な様に思っていたが、ボールが柔らか過ぎて、うまくボールコントロールが出来ず苦勞している。今は、練習をして大会に出られる位にはなりたいたいと思っている。

子育て、そして今思うこと

浜松市在住・主婦 C10 小林 富子(旧姓 樋口)

高専を卒業し、結婚。3人の子供の出産、育児。あれからもう16年も過ぎているのだと思うと、本当にあっという間でした。

今、上の息子が中学2年生で、私の背よりも大きくなったのを見て「この子が小さい頃からずっと一緒に居ただけけれど、子供と何をしたかな」「私は子供を育てながらこれと言う何かがあったかな」と思うと、何となく平凡に過ぎてきて、今気が付くとただ「大きくなったな」の一言位しか思い浮かびません。

子供の学校の帰りも遅いので、朝と夕食後の少しの間しか接する時間が無い割りには、一緒に話をしたり、テレビを見たりしています。

「中学生になると男の子はしゃべらなくなるよ」「急に変わるよ」と、よく聞きます。「息子もそうなるのかな?」「2年生になる位かな?」と思っているのですが、今の処、そのような様子はありませぬ。嬉しいような、でもちょっと不安なような、不思議な気持ちです。

息子は毎朝5時には起きていて、部屋で好きな事をしています。私なんてまだまだ寝ている時間です。本を読んだり、折り紙をしたり。折り紙と言えば、小さい頃からプラモデルが好きなように、難しい、細かい折り紙を根気良く作っています。鉄道模型の改造とか自分なりに目標を持ってやっています。ちょっと変わった個性豊かな息子ですが、将来の夢は小学校の頃から「電車の設計をする人になりたい」だそうです。

「夢は大きくね」といつも言っているのですが、可能性を持った子供達を見ていると、とっても素敵だなと思います。「これから何かをやるうとする姿っていいなあ」って思います。私も負けずに、夢を持っていきたいです。

小田原に住んで

鐘紡 小田原工場製造部 E18 鈴木 重人



私が小田原で生活するようになって、はや11年が経ちました。小田原は暖かい所です。ここに来て2~3年の内は、私の実家がある富士宮市と特別変わった気候ではない、と感じていましたが、4年、5年と経つに連れ、小田原が富士宮より暖かい事がはっきり分かる様になりました。そのためもあるのか、ここでは滅多に雪が降りません。

また小田原は、水の豊富な所で、大きな企業の工場が多く見られます。その味はと申しますと、東京に比べると遙かに美味しいが、富士宮の水には、敵わない、と言ったところでしょう。

小田原と富士宮の共通点とは言いますと、その名称がどちらも漢字3文字という事。名前の濁音が『ダ』と『ジ』といった具合に1文字ずつあるという事。某フィルムメーカーの工場があるという事。そして雪があまり降らないといった処でしょうか。

さて、私が小田原に来て最初に持った印象は、沼津より東京に近いのに古くてごちゃっとした、道路が斜めに走っている『整然としていない街だな』といったもので、余り良いものではありませんでした。後になって考えてみると、東海道線から見える小田原城を持つ古くからの城下町で、歴史があるだけに、昔ながらの城があり、家があり、人が居て、街をすっきり出来なかったのだらうと思うようになりました。

また小田原は、交通渋滞の多い所でもあります。熱海から海岸線を上って来る道と箱根から下りて来る道とがぶつかる早川周辺は渋滞のメッカであります。一方市内は、その中央に酒匂川、狩川があり、東西を分断しているため、そこに架かる橋を中心に車の流れが余り良くありません。朝の通勤時間は、空いていれば7分程で行ける道程を40分も掛けて会社まで行く始末。最近20万人に到達したという人口増加も一つの要因かと思えます。

さて、今一番の心配は、小田原を中心とした神奈川県西部地震の発生であります。72年周期と言われるこの地震が、この原稿を皆さんが読んでいる頃に起こるかもしれません。もし、その時私が生きていたら、皆さん救援物資を送って下さい。

P.S. 同期で、現在会社の同僚でもある稲葉さんが、11月に結婚します。

21世紀の新聞は？

富士写真フィルム(株) 吉田南工場研究部 E2 竹越 友昭



子供の頃『家庭にある機械から新聞が出て来る』そんな未来世界の想像図のようなものをよく見た記憶がある。そんな古い事が思い出されるのは、最近新聞に関わる仕事に携わり、「あまり早くそんな時代が来ては困ってしまう」と思っているためだろう。

最近の新聞は殆どがコンピュータで編集され、その最終情報がフィルムに出力され、そのフィルムをアルミ製の印刷版(当社商品名=P S版)に焼き付け、現像処理し、印刷原版としてそれを輪転機に掛け、印刷する。ここで当然、フィルムを介さず、直接印刷原版に情報を書き込む事を誰もが考える。

実際、その種のもので既に世の中に出始めている。我が社も「フィルムの需要が減る」などと言っておれず、この種の新システム(材料+装置)の開発を行っており、新しい印刷版用の『処理装置の開発・実用化』が私の仕事である。この新システムは、来年(1996年)からN新聞社で稼働することになっている。

こんな背景があり、冒頭の『将来の新聞像』が、今の私(我が社)にとって大きな関心事なのです。新聞が無くなればフィルムも印刷版も不要となり、我が社は…。当然、フィルム・印

刷版に代わる『メシの種』を作り出さねばなりません。5年先は現在とそれほど変わらないだろうが、10年先には変化が見られる、と私は予測している。

アメリカでは既に一部で、この種のサービスが始まっているとも聞く。10年後、20年後世間に受け入れられる商品は…?などと考えながら仕事に取り組んでいる、この頃です。

堅い仕事の話の近況報告で失礼しました。同窓会員の皆様のご活躍とご健康を、心からお祈り致します。



工事屋の世界

新菱冷熱工業(株) M8 志村 不二男

私が沼津高専を卒業し、現在の空調設備会社に就職したのは、オイルショックの翌年の昭和49年だった。以来、専ら設備工事施行に携わってきた。所謂、工事屋である。空調や衛生設備は、建築の付帯設備として建物の建設と同時に施工していく。一つの建物が完成すればまた次へと移り、国内はもとより海外の建物、はたまた阪神大震災直後の復旧工事などもあった。一緒に仕事する設計事務所、建築業者、設備業者、協力業者、スタッフも現場毎に代わるという特殊な世界である。

今でも印象に残る現場としては、クアラルンプールのUMNOビルと東京お茶の水のセンチュリータワーがある。

前者は10年程前に完成したが、今でも首相のマハティール率いるUMNO党の本部ビルとして、鉄筋コンクリート造り40階建て(日本のように鉄骨は使わない)の当時、マレーシア最大のビルである。マレーシアは人種のるつぼと言われ、マレー系、中国系、インド系と人種、宗教とも様々で、初めて海外で見た風景、建物、習慣、人と全て新鮮で、感動的で、家族にとっても異国の生活が、思い出深いものになっている。

センチュリータワーは、イギリスの著名な建築家Sir Norman Foster設計のレストラン、美術館を持つ21階建ての事務所ビルだが、殆どガラス張り、吊り床構造の事務所スペースは柱、間仕切がなく、自然の大空間の贅沢さを満喫できるようになっている。設備的にも、通常は意匠的に隠してしまう機械類やダクト、配管を逆にガラス越し、又はルーバー越しのシルエットとして見えるようにデザインされた、今まで日本にないコンセプトを持つ芸術品のような建物である。(計画から完成までが写真集として内外で出版された)

ビル建設は様々な業種が一つの現場に集まって、重層下請けで建設する為、設計図段階では分からない技術的トラブルや業種間、業者間の軋轢が生じる。睡眠時間も満足に取れない程の忙しさや、精神的プレッシャーのある竣工間際など、もう工事屋などやりたくないと思いつつ、

今年の2月には勤続20年表彰を受けるに至ってしまった。長い間、設備屋を続けてこれたのは、建物が竣工した時の充実感もあるが、自分の仕事の跡が建物の中に形として残る満足感、楽しさがあるからと思う。

昨今の建設業の社会的イメージは、受注形態の宿命か、談合やゼネコン汚職等で非常に悪く、残念に思うが、大方の建設業の技術者は、バブル経済崩壊後の不況や3K職場と言われる中にあってインテリジェント化、複雑化、高度化するビル建設に真摯な姿勢で奮闘している。

平成7年度東海地区大会成績表

種目	種類	順位	氏名	全国出場	全国成績
陸上競技	総合	4位			
	男子400m	3位	D5 河原由修		
	//4×400m	3位	E2 望月・M3 杉山・S4 落合・M3 三浦		
	//走り幅跳び	2位	E2 望月達夫		
	//三段跳び	3位	M3 三浦武志		
	女子砲丸投げ	2位	S4 岡本裕子		
バレーボール	男子	2位			
	女子	4位			
バスケットボール	男子	5位			
ソフトテニス	団体	5位			
テニス	男子団体	3位			
	女子団体	3位			
卓球	男子団体	3位			
	女子団体	2位			
	女子個人ダブルス	2位	C3 松原・C4 小林		
サッカー		1位		◎	優勝
ハンドボール		4位			
柔道	団体/全国大会予選	2位			
	団体/勝抜戦	1位			
	個人/軽量	1位	D3 鈴木一郎	◎	1回戦
剣道	男子団体/全国予選	3位			
	//団体/勝抜戦	5位			
	女子団体	4位			
硬式野球		2位			
水泳	総合	2位			
	個人200m平泳	2位	E4 渡辺 圭		
	個人200m背泳	3位	S1 神谷匡則		
	400mリレー	3位	C4 大川・C5 小島・C4 桜井・S1 神谷		
	400mMリレー	3位	C4 桜井・E4 渡辺・C2 坪井・C4 大川		
	個人100m平泳	2位	E4 渡辺 圭	◎	予選落ち
	個人100m背泳	2位	C4 桜井優樹	◎	予選落ち
	個人100m自由型	3位	C4 大川喜敬		
	女子50mバタフライ	1位	E2 伊藤満代	◎	決勝6位
女子100m自由型	1位	C1 小林明子	◎	決勝9位	
弓道	団体	3位			
	個人	1位	E4 井上記一		
空手	団体/組手	4位			
	個人/型	1位	E4 霜村金久		
バトミントン	団体	2位			
	男子個人ダブルス	3位	M4 渋谷・D4 和田		
	//個人シングルス	2位	M4 渋谷俊和		

●その他の大会結果 ※全国高専将棋大会/ 団体：優勝 個人：3位(D3 平沢剣吾) ※高校野球県予選/ 1回戦：対庵原高校6-3

同窓会会則

第一章 総 則

第1条 本会は沼津工業高等専門学校同窓会という。

第2条 本会は本部を沼津工業高等専門学校に置く。

第二章 目的及び事業

第3条 本会は会員相互の連絡、親睦と母校との連絡を計り、工業技術振興に寄与することを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 会員相互の連絡に関する事。
- 二 会員名簿の発行に関する事。
- 三 会誌等の発行に関する事。
- 四 母校在学学生に対する援助に関する事。
- 五 その他必要な事業。

第三章 会 員

第5条 本会は、次の会員を以て組織する。

- 一 正会員
沼津工業高等専門学校を卒業した者ならびに同校に3年以上在籍し理事会の承認を受けた者。
- 二 特別会員
沼津工業高等専門学校の教職員ならびに理事会で推薦された旧教職員。

第四章 役員及び職務

第6条 本会に、次の役員を置く。

- | | |
|--------|-----|
| 一 名誉会長 | 1 名 |
| 二 会長 | 1 名 |
| 三 副会長 | 1 名 |
| 四 事務長 | 1 名 |
| 五 理事 | 若干名 |
| 六 監事 | 2 名 |
| 七 名誉顧問 | 若干名 |
| 八 顧問 | 若干名 |

第7条 役員は次の職務を行う。

- 一 名誉会長の職務
会長の諮問に応ずる。
- 二 会長の職務
 - イ 本会を代表し会務を総理する。
 - ロ 第4条の事業を行うため、必要に応じて分科会委員会を置くことができる。
委員は会長が選出し、その職務を委嘱する。
 - ハ 総会を召集し、必要に応じて理事会、委員会、その他の会議を召集する。
- 三 副会長の職務
 - イ 会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。

ロ 会長の置いた委員会を統轄し、その諮問に応ずる。

四 事務長の職務

イ 本会の会計業務を理事に委嘱することができる。

ロ 年度終了時に決算報告書、予算案を作成する。

五 理事の職務

理事会を構成し、会務を処理する。

六 監事の職務

会計を監査する。

七 顧問の職務

会務に関し、理事会の諮問に応ずる。

第五章 役員を選出方法及び任期

第8条 会長、副会長及び事務長は理事会において選出し、総会の承認を受けるものとする。

2 理事は卒業年次の各科から2名ずつ選出された者、及び会長の委嘱による者若干名とする。

3 監事は理事会の推薦により会長が委嘱する。

第9条 名誉会長には沼津工業高等専門学校長を推挙する。

2 顧問は特別会員の中から理事会が推薦し会長が委嘱する。

3 名誉顧問は長年に渡り本会顧問を歴任し本会に対して特に貢献のあった特別会員の中から理事会が推薦し会長が委嘱する。

第10条 役員は任期は2か年とする。但し再任を妨げない。

2 補欠により選任された役員は前任者の残任期間とする。

第六章 支 部

第11条 本会は理事会の承認を受けて支部を設けることができる。

支部についての規定は別にこれを定める。

第七章 会 議

第12条 総 会

一 総会は原則として2年に一回これを開催する。

必要に応じて臨時総会を開くことができる。

二 総会における審議承認事項は、出席正会員の過半数の同意を得た時可決される。

三 総会における決定事項は原則としてこれを全会員に通知する。

2 理 事 会

会長が必要に応じ随時開催する。

3 委 員 会

一 会長が必要に応じ随時設置する。

二 副会長が委員長になり、会長の諮問に応ずる。

第13条 次の事項は総会において承認を受けなければならない。

一 事業計画及び収支予算に関する事。

二 事業報告及び収支決算に関する事。

三 役員を選任に関する事。

四 会則の改廃に関する事。

五 その他会務運営に必要な重要事項。

第八章 会計

第14条 本会の正会員は終身会費を納入するものとする。

終身会費 20,000円

第15条 本会の経費は終身会費その他をもってこれに当てる。

第16条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第九章 雑則

第17条 本会の正会員は住所、姓名、勤務先等の変更に関して、その都度、本部に連絡しなければならない。

第18条 本会則は総会における審議で変更することができる。

第19条 本会則を施行するに必要な細則は理事会の審議を経て別に定める。

附 則

- 1 この会則は昭和42年3月20日から施行する。(昭和42年3月20日制定)
- 2 この会則は昭和43年6月23日から施行する。(昭和43年6月23日改定)
- 3 この会則は昭和44年11月9日から施行する。(昭和44年11月9日改定)
- 4 この会則は昭和47年11月3日から施行する。(昭和47年11月3日改定)
- 5 この会則は昭和50年3月1日から施行する。(昭和49年10月27日改定)
- 6 この会則は昭和59年3月1日から施行する。(昭和58年10月27日改定)
- 7 この会則は昭和62年11月1日から施行する。(昭和62年11月1日改定)
- 8 この会則は平成3年11月17日から施行する。(平成3年11月17日改定)

編集後記

コプス第13号の特集は西湘支部(M1)増田徳一氏に依頼致しました。いかがでしたでしょうか？今までとは違った視点で同窓会誌に寄稿していただきました。前回の総会でも静岡市周辺の有志にお願いして静岡駅前の日興会館にて盛大に開催することが出来ました。

次回コプス14号は'96年度の予定です。次の会誌に対して良いアイデア、企画等、会員に少しでも興味をおこす“Surprise”がありましたら是非とも寄稿して下さい。

Copse 第13号

平成7年9月30日発行

●発行責任者/木内 倫弘

●発行所/沼津工業高等専門学校同窓会
〒410沼津市大岡3600TEL0559-21-2700

●印刷所/ジャパン コミュニケーション
〒410沼津市柳町3-15TEL0559-23-0123